

平成 27 年度 発達障害理解推進拠点事業
成果報告書（概要版）

実施機関名（埴町教育委員会）

1. テーマ

発達障害の可能性のある個々の児童生徒に対する早期支援の在り方について研修することにより、児童生徒の困り感やニーズへの対応ができるように教職員の専門性の向上を図る。

2. 問題意識・提案背景

(1) 埴町の特別支援学級に在籍している児童生徒は、小中学校 9 名で発達障害の可能性のある児童が 3 小学校で 18 名と全小学校児童数の 4.2%である。この児童の実態としては、学習内容が理解できない、授業中落ち着いて学習できない、軽度の知的障害がある等の理由で特別な支援を必要としている。各学校において、当該児童の支援に全職員、支援員が積極的に関わっていけるようにするため

□発達障害に対する専門的な知識や支援の方法を研修する。

□特別な支援の必要とする児童への対応や関わり方について実践的な研修をする。

□発達障害の可能性のある児童への早期支援・教職員の専門性の向上を目指すために先進校や専門機関での研修を行い、町内教職員や保護者、地域住民を対象にしたセミナーの講師として波及する役割を果たす。

□地域の関係機関や P T A に対して、特別支援教育に関するセミナーを開催し、授業参観等、専門的な知識を身につける機会を設定する。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
埴町長 菊池 基文	埴町立常豊小学校（はなわちょうりつ つねとよしょうがっこう）

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
埴町長 菊池 基文	埴町立埴小学校（はなわちょうりつ はなわしょうがっこう）
埴町長 菊池 基文	埴町立笹原小学校（はなわちょうりつ ささはらしょうがっこう）
埴町長 菊池 基文	埴町立埴中学校（はなわちょうりつ はなわちゅうがっこう）
埴町長 菊池 基文	埴町立埴幼稚園（はなわちょうりつ はなわようちえん）
埴町長 菊池 基文	埴町立常豊幼稚園（はなわちょうりつ つねとよようちえん）
埴町長 菊池 基文	埴町立笹原幼稚園（はなわちょうりつ ささはらようちえん）

4. 拠点校における取組概要

(1) 目的・目標・取組概要

ア 発達障害に関する研修会や外部人材を招聘して専門性の向上を図り、授業や学校生活において適切な指導や児童理解をとおして、保護者等の十分な理解を得るための取組をする。

イ 拠点校や理解推進地域内における教職員の研修受講率 100%を目指す。

ウ 保護者の研修会受講率 90%を目指す。

- エ 拠点校教員を中心とした理解推進地域における専門家養成数 100%を目指す。
- オ 各拠点校が重点的に取り組む部分
 - (ア) 発達障害の可能性のある個々の児童への適切な関わり方
 - (イ) 学習意欲が持続する支援や教師の適切な指示の与え方
 - (ウ) 保護者や関係専門機関との連携
- カ 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒を含むすべての児童生徒が理解しやすいよう配慮した授業等、指導方法の改善
- キ 授業の導入における教材提示の工夫（日常の生活経験に基づいた教材等）をする。
- ク レディネステスト、県学力調査やC R T検査結果を踏まえた学習過程の工夫と特別支援教育支援員によるサポート場面を予め打ち合わせをする。
- ケ 学習過程に十分考える時間の確保をする。
 - (2)教職員向け発達障害に関する研修等
 - ア すべての教職員が身につけるべき基礎的な知識・技能に関する定期的な校内研修
 - (ア) 特別な支援が必要な児童の実態把握の在り方
 - (イ) 効果的な教材教具の活用について
 - イ 特別支援学級担当教員、通級指導の担当教員等少人数で実施する専門的な研修
 - (ア) 特別支援教育の視点を生かした授業
 - (イ) L D、A D H D、高機能自閉症の児童理解について
 - ウ 理解推進地域の特別支援教育コーディネーター等の教職員を対象とした研修
 - (ア) 各校担任との情報交換
 - (イ) 保護者や関係機関との連携の在り方
 - (3)理解推進地域への成果普及等
 - ア 理解推進地域内の教職員、保護者等を対象とした成果普及のためのセミナー
 - (ア) 子供とのじょうずな関わり方
 - (イ) 子供たちへの理解を広げるための支援の仕方
 - イ 理解推進地域内における他校での校内研修等における講師や助言者としての参加
 - (ア) 児童の困り感に寄り添った支援の仕方
 - (イ) 校内支援体制の構築
 - (4)研修プログラムの体系化に係る工夫
 - ア 発達障害に関する基礎的な技能や知識を理解推進地域内教員、保護者や地域住民等に幅広くP Rし、研修への参画意欲の高揚を図る。
 - イ 拠点校全教職員をはじめ、各学校の中核的な教職員が連携を密にし、同一歩調で研修ができるようにする。
 - ウ 理解推進地域内の研修の具体的計画を教職員、保護者、地域住民へ周知する。

5. 主な成果

(1) 発達障害の可能性のある児童・生徒に対する支援をするために、拠点校をはじめ理解推進地域内の各幼稚園・小・中学校において全職員、支援員が組織的に関わり、支援にあたってきたところ以下の成果が得られた。

ア 発達障害の可能性のある児童生徒への適切な関わり方について改善が図られ、特別支援教育コーディネーターを核にした、担任、養護教諭、特別支援教育支援員及び管理職との連携した、研修・実践に組織的に取り組むことができた。

イ 全ての児童生徒にとっての学びやすさに配慮した指導方法の改善では、TTにおける連携の工夫、授業時における活動時間の意識化の工夫で成果が得られた。

ウ 教職員研修では、「ユニバーサルデザインを生かした教科指導」をテーマに研修を進め、視覚的な表現を取り入れた指導・支援の工夫により、児童の学習理解を大いに促進を図る効果があることをとらえることができた。

エ 理解推進地域の教職員及び特別支援に関わる教員、支援員、スクールカウンセラー等を対象とした研修では、「教育相談の在り方」や「保護者との関わり」といった現在持っている切実な悩みについて意見交換することができ、大変好評であった。

オ 理解推進地域内の教職員、保護者、地域住民等を対象としたセミナーでは、「子どもをほめて伸ばすヒント」や「人は一人一人違う」の演題のもと実施した。「子どもたちや保護者、教職員が笑顔で過ごせるための手がかりを学べた」等のコメントが得られた。

カ 2年間の研修を通して、学んだ内容を生かしながら児童に接したり、指導方法を改善したりしたことで、児童に変化が見られ学校全体が落ち着き、学力向上への基盤となった。また、本校の教職員だけでなく、他校の教職員や保護者等も研修を受けることにより、町全体に特別支援教育への理解を広めることができた。

6. 今後の課題と対応

(1) 2年間にわたる発達障害についての専門的な知識や支援の在り方についての研修を通して、「人は一人一人違う」という当然の考え方について、研修者全員が再認識できた。児童生徒一人一人の個性やよさについてたくさんほめ、自信をつけさせていく研修を今後も継続していく必要がある。

(2) 発達障害に関する内容について、理論的な部分と実践的な部分の両方学ぶことが大切であることが分かり、それらを学ぶ「時間」と「場所」の確保について保障していけるようにしていきたい。

(3) 2年間で研修した内容がさらに地域全体に広がりを見せることができるよう、理解推進地域内の各校の教職員を通して、本研修の意義や内容について積極的に普及活動に努めていきたい。

7. 問い合わせ先

組織名：埴町教育委員会

- (1) 担当部署 学校教育課
- (2) 所在地 福島県東白川郡埴町大字常世北野字八幡 120 番地
- (3) 電話番号 (0247) 43-0042
- (4) FAX 番号 (0247) 43-1883
- (5) メールアドレス kyoiku@town.hanawa.fukushima.jp